

令和5年度 阿蘇の「授業力」向上のための3つの重点事項

～授業づくりへの「情熱」、児童生徒との「信頼」、目標達成のための「方策」～

阿蘇教育事務所

重点1 指導と評価の一体化

- 【「目標⇔評価」⇔「めあて（学習課題を含む）⇔まとめ」】を整合させ、一本の軸で貫く授業の徹底

重点2 児童生徒を「学びの主体」とするための指導の充実

- 授業における**主体的な学び**を促す学習活動の充実
 - * 単元全体を見通して、「自分で考える」「自分の考えを工夫して発表する」「自分の学びを振り返る」等、自ら取り組む学習場面の確実な設定
- **定着確認**の徹底
 - * 単元（授業）ごとに最低限習得すべき事項が身に付いているかの確認と、分かる喜びや達成感が実感できるよう、身に付くまでの粘り強い指導
- 目的を明確にした**I C T**の活用
- 授業と連動した自主的・計画的な**家庭学習**の推進



重点3 学力向上検証改善サイクルの確立

- 課題である問題の確認とその克服
 - * 授業力向上に向けた各調査問題の活用
 - * 個人票を基にした、子供一人一人の意欲を最大限高める声掛けと、課題克服の方法についてのアドバイス
 - * 児童生徒自らが課題を分析し、課題を克服するための取組の推進
- 各学校における学力の課題を踏まえた共通実践事項の設定および検証



活気ある授業の基盤は「安心と信頼あふれる学級・学校経営」

- ◆ 子供同士がつながり、安心して過ごせる 学級づくり
- ◆ 子供と教師がつながり、信頼関係を基盤とした 学級づくり
- ◆ 組織体として教職員同士がつながり、子供のために互いを高め合える 学校づくり

「目標⇔評価」⇔「めあて（学習課題を含む）⇔まとめ」の整合
一本の軸で貫く授業構想 → 指導と評価の一体化の実現

目標

本時の学習で子供が目指す姿を、授業者の立場から明確にする。

※目標の設定は、学習指導要領を根拠とする

めあて

本時の学習で子供が目指す姿を、子供自身の立場から明確にする。

学習課題

学習課題を明らかにすることで、目標やめあてが達成できるよう意図的に設定する。

「めあて」と「学習課題」は、子供が本時で学ぶ内容に見通しを持ち、学習の方向性が明らかにできるように設定する。

本時の中心となる学習活動

明らかにした学習の方向性を常に意識しながら、子供の様々な考えを引き出すことができる学習活動を工夫する。

まとめ

本時の学習により、「何を学んだのか」を子供自身が明らかにする。

本時の学習活動をとおして、「めあて」と「学習課題」に対して明らかになったことを子供自身が確認し、集団で共有したり、個人で確かめたりする。

評価

目標に対しての達成度を、評価規準に照らし合わせながら見取る。

整合を図る

整合を図る

振り返り

「何ができるようになったのか、できなかったのか」を子供自身が明らかにする。

省察

授業・単元終了後に、授業者が子供の結果や姿等を振り返る。